

第40回 労働リーダーシップ コース報告

'09年1月7~24日



左：組合・職場の課題を話し合う討論会
下：お茶室体験



金属労協（IMF-JC）が主催する労組リーダーの登竜門である労働リーダーシップコースの記念すべき第40回が2009年1月7～24日の日程で開校した。今回のコースには、加盟産別・単組から、北は山形から南は福岡まで総勢42名が受講した。今回の40回で、40年間の修了生数は累計1343名となった。

受講生は、合宿形式で、仲間作りをしながら、労働組合リーダーとして必要な基礎的・専門的知識を「歴史的背景、立つ場、世界の広がり、生きる基礎」という4つの柱に基づく体系的な20講義を研鑽した。また、「労働組合と人間」「労働組合と世界」「労働組合と職場」「労働組合と社会」「労働組合と働き方」の5つのゼミナールに分かれて、ものづ

くり労組・職場での課題について徹底したディスカッションを行い、最後に、その課題解決案を個人でまとめると共に、ゼミ別にその成果を発表し合った。

その他、特別プログラムとして、グローバルな資質を養うべく、早朝の7回にわたる英会話講座、特別講演として経営者を招聘しての「経営と人間」、金属労協事務局長による「金属労協の運動課題」、コミュニケーションを体験学習する「ファンタジー・グループ」、組合・職場の課題を自由に話し合う討論会、京都の文化体験する茶室体験と、人生の意味を考える早朝の座禅、古都散策では、「鞍馬山の自然に学ぶ」として牛若丸で有名な鞍馬山を散策した。



上：ゼミの成果を発表したゼミまとめ報告。
下：フィンガー・ペインティングでコミュニケーションを体験学習したファンタジーグループ。



鞍馬山への散策。駅前の天狗の前で記念撮影

開会式で祝辞を述べる平田校長



▼開校式

琴の演奏で厳かに始まった開校式では、冒頭、平田哲校長からの式辞の後、主催者を代表して西原浩一郎金属労協議長が挨拶、40年間にわたる同コースの意義について述べると共に、竹中初代校長をはじめ、平田校長ら運営委員の先方の献身的な協力を感謝した。

この後、来賓として厚生労働省の小野晃政策統括官が祝辞を述べられた。同氏は、40年にわたり開催されてきた同コースに対し、関

係者に敬意を表するとともに、卒業生の多くが労働界で活躍していることを高く評価し、現在の労働市場の課題について言及した。

続いて、中條毅運営委員長、山口芳彦JIC関西ブロック代表、香川孝三副校長（大阪女学院大副学長）からそれぞれ祝辞を受けた。最後に、受講生を代表して窪田孝光さん（全国マツダ労連事務局次長）が元氣よく決意表明を行い、開校式を終えた。

▼受講生主体の実行委員会

1月7日初日、晩の全体ミーティングでは、全員の自己紹介を行った後、ゼミ毎に班長・副班長を決めたほか、座長、ラジオ体操担当、討論会実行委員などを互選で決めた。

平田ゼミの班長は尾高誠司さん（マツダ労組）、副班長は大嶋俊央さん（全労済労組）。香川ゼミの班長は中村修治さん（パナソニックAVネットワークス労組）、副班長は岩田欽二さん（JFEスチール知多労組）。石田ゼミの班長は住田孝司さん（マツダ労



朝の散歩～砂防ダムの前で

組）、副班長は佐藤忍さん（JFEスチール千葉労組）。中田ゼミの班長は、中川義明さん（本田技研労組）、副班長は北之問努さん（三洋電機労組）。富田ゼミの班長は金田聡さん（パナソニック電工労組）、副班長は野原健さん（JFEスチール福山労組）。

班長、副班長10名で実行委員会を構成するが、実行委員会の互選で、級長には、住田孝司さん（マツダ労組）が選出された。毎日昼休みに住田級長のもと実行委員会を開き、受講生の健康状態やプログラ

ム上の課題を検討、事務連絡事項を伝達など、コース全体の運営の任に当たった。毎朝、健康のため、全員で朝7時からラジオ体操を行い、周辺を散歩した。今回は、朝方に雪が降ったり止んだりして朝の散歩はあまりできなかったが、周辺の砂防ダム、鷲ノ森神社や修学院離宮の正門などへ散歩した。



特別講演「経営と人間」

▼特別講演や討論会など 特別プログラム

特別プログラムとしては、西原JIC議長による開校講演「これからの労働運動とリーダー像」、経営者による特別講演「経営と人間」（新日鐵（株）の平山喜三常務取締役）、

上…英会話教室
下…交流会でのじゃんけんゲーム



seminar

5ゼミ体制に拡充したゼミナール

ゼミは本コースの重要な部分であり、ものづくり職場・組合におけるさまざまな課題について講師の指導のもと、ざつとばらんな解決への経験交流や討論を3時間ずつ計4回行い、その成果を最後に個人ごとにレポートにまとめた。1月23日は午前中ゼミ毎の各人のレポート発表のあと、11時半から全体のゼミまとめを行い、ゼミ毎に発表した後、各々ゼミ担当講師からの講評を受けた。今回から従来の4ゼミ体制に富田ゼミ「労働組合と

米国人留学生6名の講師による朝夕分ずつ計7回にわたる英会話、茶室体験、座禅などを多彩な特別プログラムを体験した。

コース折り返しの14日(水)の午後は、初めての試みとして「鞍馬山

の自然に学ぶ」をテーマに鞍馬山散策を行った。関西ゼミナーハウスから「修学院駅」まで20分ほど歩いて下り、叡山電鉄で終点の「鞍馬」まで電車で行き、香川副校長を先頭に山上にある鞍馬寺を訪問した。前日の雪が山上に積もって山道が凍結していたため、途中まではケーブルカーを利用した。本殿金堂まで雪道をのぼり、社務所にて「鞍馬山の歴史と自然」について講話を伺った。

その晩には、住田級長の総合同会のもと交流会を開いた。じゃん

けんゲームや、各ゼミ対抗では、各ゼミで考えた思い思いのスタンスや出し物に腹の底から笑いの、歓談した。最後に香川副校長を先頭に全員での阿波踊りで会場を踊り回り、後半戦への鋭気を養った。

▼出発の集い、閉校式

最終日の24日朝は、住田級長の司会で、「出発の集い」を行い、一言ずつ参加しての感想を述べた。その後、10時半より閉校式を行い、平田校長の式辞の後、平田校長から受講生42名全員に修了証が授与され

働き方」が新たに加わり、5ゼミ体制に拡充した。受講生のレポート・テーマは以下の通り。

★平田ゼミ「労働組合と人間」

テーマ「職業と人生の意味を考える」

指導講師：平田哲・労働リーダーシップコース校長（アジアボランティアセンター代表）

「労働組合としてのアプローチを考える」（全本田労連・斎田泰之）、「地域社会へ

の貢献を通じて」（マツダ労組・尾高誠司）、「職業における自己実現・自己成長について」（シャープ労組三重支部・大津未来生）、「職業における自己実現・自己成長について」（パナソニック電工労組パナソニック電工制御支部・小坂真也）、「職業と人間関係を考える」（パナホーム労組・田中三也）、「労働組合としてのアプローチを考える」（コマツユニオン真岡支部・高橋百年）、「地域社会への貢献を通じて」（三菱重工労組神戸造

の貢献を通じて）（マツダ労組・尾高誠司）、「職業における自己実現・自己成長について」（シャープ労組三重支部・大津未来生）、「職業における自己実現・自己成長について」（パナソニック電工労組パナソニック電工制御支部・小坂真也）、「職業と人間関係を考える」（パナホーム労組・田中三也）、「労働組合としてのアプローチを考える」（コマツユニオン真岡支部・高橋百年）、「地域社会への貢献を通じて」（三菱重工労組神戸造

た。今回の修了生を含めて、第40回までの修了生の累計は、1343名となった。この後、主催者を代表して、若松事務局局長が挨拶した後、中條運営委員長、香川副校長、石田中田・富田各運営委員からそれぞれ餞の言葉を頂戴した。最後に、受講生を代表して、今コースの級長を務めた住田マツダ労組執行委員が、答辞を述べ、全員で卒業の歌を合唱し、



右：閉校式で答辞を述べる住田級長
上：もみじの記念植樹をする第40回コース受講生

船所支部・秋武秀俊)、「職業と人間関係を考える」(全労済労組中日本総支部大坂支部・大島俊央)

★香川ゼミ「労働組合と世界」

テーマ「21世紀国際社会における労働組合の役割」

指導講師：香川孝三・労働リーダーシップコース副校長(大阪女学院大学副学長)

「海外駐在者の課題と労働組合の役割」(本田技研労組埼玉支部・長田力)、「労使に求められる社会的責任」(全国マツダ労連・窪田孝光)、「電機産業の国際政策と今後の労働組合の取り組み」(パナソニックAVネットワークス労組・中村修治)、「海外勤務者の労働条件と労働組合の役割」(パナソニックAVネットワークス労組オーディオ・ビデオ支部・楯智之)、「海外給与と制度とその問題点」(日本電気労組府中支部・野津光司)、「日本企業のダイバーシティへの取り組み」(パナソニック電工労組近畿・四国営業支部・谷 泰弘)、「アメリカと比較した日本のダイバーシティ」(JFEスチール知多労組・岩田欽二)、「海外駐在員の労働条件についての現状と課題」(全労済労組本部部門支部・佐治豊彦)

★石田ゼミ「労働組合と職場」

テーマ「労働組合機能の再発見とフロンティアの展望」

指導講師：石田光男 同志社大学社会学部教授

「労働組合と職場」(マツダ労組・住田孝司)、「労働組合機能の再発見とフロン

ティアの展望」(パナソニックAVネットワークス労組山形支部・朝倉義幸)、「職場における「組合活動意義」の再考」(パナソニックR&Dユニオン生産技術研究所支部・三原健陽)、「労働組合機能の今日的な課題と今後のあり方について」(パナソニックホームアップライアンス労組エアコン支部・瀬川真司)、「労働時間管理と目標管理の関係について」(オムロン労組・淀川宏樹)、「労働組合機能の再発見とフロンティアの展望」(パナホーム労組湖東支部・瀧口武彦)、「職場労使関係の課題と個人の業務量に対して、組合としてどう関与できるか?」(JFEスチール千葉労組・佐藤忍)、「労働組合機能の再発見とフロンティアの展望」(神戸製鋼所労組高砂支部・清水昭裕)、「労働組合と職場」(三菱重工労組名古屋誘導推進システム製作所支部・水谷幸二)

★中田ゼミ「労働組合と社会」

テーマ「仕事と処遇と納得性のある給与の決め方と水準」

指導講師：中田喜文 同志社大学大学院教授

「仕事と処遇と納得性のある給与の決め方と水準」(トヨタ車体労組・千田路征)、「仕事と処遇と納得性のある給与の決め方と水準」(本田技研労組エンジニアリング支部・中川義明)、「仕事と処遇と納得性のある給与の決め方と水準」(山洋電機労組NDS S支部・北之間努)、「仕事と処遇と納得性のある給与の決め方と水準」(パナソニック電工労組四日市支

部・岩間正樹)、「賃金制度改革への提案」(CSK労組CSKシステムズ支部・佐藤悟)、「仕事と処遇と納得性のある給与の決め方と水準」(コマツユニオン北陸支部・宮崎浩二)、「IMF・JCにおける自社の賃金体制の現状分析」(住友金属小倉労組・平川達齋)、「仕事と処遇と納得性のある給与の決め方と水準」(昭和電線労組仙台地区・遠藤晴樹)

★富田ゼミ「労働組合と働き方」

テーマ「ワーク・ライフ・バランス」

指導講師：富田安信 同志社大学社会学部教授

「ワーク・ライフ・バランス」(全本田労連・伊藤一茂)、「ワーク・ライフ・バランス」(本田技研労組研究所支部・能津邦洋)、「ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて」(パナソニックAVネットワークス労組仙台支部・石山光広)、「研究開発部門におけるワーク・ライフ・バランスの取組みについて」(パナソニックR&DユニオンR&D支部・松井巖徹)、「ワーク・ライフ・バランス」(パナソニック電工労組新潟支部・梅野孝二)、「ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて」(パナソニック電工労組・金田聡)、「ワーク・ライフ・バランス」(コマツユニオン小山支部・小堀雅義)、「ワーク・ライフ・バランス」(JFEスチール福山労組・野原健二)、「労働組合と働き方」(ワーク・ライフ・バランス) (フジクラ労組・鈴木太)

閉校式を終えた。終了後、裏門手前に、第40回修了生が寄贈したもみじの木の記念植樹を行った。また、第40回修了生は、ボランティア活動の「環」として関西セミナーハウスのフロントにプルトップの回収缶と趣旨書を設置した。

▼次回第41回コースの日程

次回第41回労働リーダーシップコースは、2010年1月7日(木)～1月23日(土)の日程で京都・関西セミナーハウスで開催する。



閉校式後の記念撮影

平田ゼミ



労働リーダーシップコース校長／
アジアボランティアセンター代表

平田 哲 (ひらた・さとし)

ゼミナール担当講師のコメント 1

記念すべき第40回労働リーダーシップコースの修了者は42名でした。過去40年間に累計で1343名の労働組合役員がこのコースを終了して、全国の職場で元気に活躍していると思います。

さて、今回のコースでは、例年のことですが、組合役員が職場を離れて、2週間半にわたる京都・関西セミナーハウスでの合宿制の共同研修に入って、当初は戸惑う人がいたことも事実です。しかし、一日一日と日が経つにつれて、仲間意識も深まり、修了して帰るときには、切つても切れない新しい友情が芽生え、皆さんの顔がみんな輝いて見えました。今もお互いに交流され、励まし合っていることでしょう。

講義の内容はあまり記憶に残っていないかもしれませんが、各担当の先生からの指導によるゼミナールでの討議は、お互いの職場や組合の課題について率直に

切磋琢磨できて有益だったと思います。

私の担当した「労働と人間」のゼミでは、「職業と人生」をテーマにみんなで考えました。ゼミ生には、「ただ一回の人生を自己の職場でどのように日常考えているのか」を問うてみました。しかし、これはかなり難しい問いでありました。私自身、校長として、ゼミ担当講師として、今回のコースの講座全体を通じて一貫して強調していたのは、参加者主役、ということですが、したがって、このゼミでも、私の発言や、ましてゼミの中で一方的に講義することは極力避けて、受講生の意見や声を大切にして、聞き役に回っていました。時々、受講生の議論の軌道修正をしたくらいで、ゼミ参加者の満足度は高かったと思います。

私自身、竹中前校長亡き後、この3年間、校長として勤めてきましたが、全くその器としては不適合者ですが、何とか全うできたのも、運営委員の先生方、および受講生の格別のご協力とご支援の賜物と心から感謝申し上げます。受講生各人が、一生に一度しかない、職業と人生を、労働組合という立場から、組合員の皆さんにとって、安心して生き生きと働ける職場づくりに頑張ってください。また、いつの日か、元気な姿でお目にかかる日を楽しみに待っています。培った友情を大切に頑張ってください。

受講生代表コメント

平田ゼミ・班長／
マツダ労組広域組織担当室長
尾高 誠司 おだか・せいじ



一流講師陣の講義と鞍馬の大自然とが絶妙にミックス

開校式は京都の地らしく琴(古都?)の演奏で厳かにスタートし、平田校長からの式辞、主催者を代表して西原金属労協議長の挨拶、厚生労働省政策統括官の小野晃氏の挨拶と続き、このコースの卒業生の多くが労働界で活躍していること、そしてこの体験が貴重なものになるであろうとのコメント等を聞き、ここでやっと正月気分が抜けてきた気がしました。この研修コースの凄いところは、一流の教授陣による講義とゼミ、身体全体をつかったコミュニケーション体験学習そして鞍馬山散策という大自然とのふれあいがみごとにミックスされている点にあります。

一流教授陣による講義では錆びた脳にメスが入り、ゼミでは、担当講師の指導のもと各人が持ち寄った職場、組合の課題について論議をおこない、そして解決に向けて整理をおこない、その成果を最後に個人ごとにレポートにまとめて、ゼミごとに発表しあいました。

わが平田ゼミでは、個性豊かな面々(麺麵?)が揃い、楽しく議論を深めることができ、ゼミ員全員に非常に感謝します。ゼミによっては卓球の腕前も向上したと聞いています。短い期間でしたが、同じ釜の飯を食い、大いに語り、そして飲み貴重な時を送ることができました。平田先生をはじめ講師の方々、関係者そして各ゼミ生一同に感謝すると同時に互いの健闘を祈念いたします。

平田ゼミ・副班長／全労済労組中日本総支部
大阪支部副委員長

大嶋 俊央 おおしま・としひろ



私の人生の「宝」

第40回、節目の労働リーダーシップコースが終了し、早くも半年が経過しました。受講前の不安と緊張が日々薄れ、刺激の多い充実した日々が変わった受講期間を今もよく思い出しています。

労働組合の歴史をはじめ、経済、哲学など多岐にわたる分野を学び、また茶室体験や座禅など貴重な経験を、さらに平田ゼミでは、「職業と人生の意味を考える」とのテーマについて、ゼミのメンバーと多くの議論をいたしました。

特にゼミの中での議論は、様々な考え方を学び、吸収できた場となり、私の人生の「宝」になっております。

平田校長がおっしゃられた「良く学び、良く遊び、良き友を得る」を心に留めながら、今後の仕事、組合活動、さらに家庭において、今回の労働リーダーシップコースで学んだ内容を生かしていきたいと考えております。

最後になりますが、この場をお借りいたしまして、IMF-JC 労働リーダーシップコースに携わられた、多くの講師の皆様、関西セミナーハウスの職員の皆様、IMF-JC の事務局の皆様へ感謝とお礼を申し上げます。

ゼミナール担当講師のコメント 2

香川ゼミ



労働リーダーシップコース副校長／
大阪女学院大学副学長
香川 孝三 (かがわ・こうぞう)

最初2週間半も家族と離れること、長時間の研修を受けることに不安感を持っていきますが、終わってみれば、貴重な経験をしたこと、異業種の人々との交流を持ち、これからこの関係を保っていくことができることに、受講生は喜びを感じています。受講生からいただいた色紙にはそのように書いています。お世辞が入っていても、教える立場の者にとっては嬉しいことです。

労働リーダーシップコースは来年第41回目を迎えますが、研修の効果はなかなか目に見えにくいものです。すぐに効果があらわれるものではないからです。この研修をきっかけとして、研鑽を積まれることを期待したい。日常の業務とは違った視点で、自分の仕事や生活を振り返ってみるきっかけになる



第一回 香川ゼミ

ことを期待したいものです。それを組合活動の実践に繋げていくことができれば、それが研修の成果と言えるかもしれません。組合活動から別の分野に転身される方々もおられるでしょうが、その場合でも研修の体験が活かされることを期待したいものです。このような機会を多くの方々に経験していただきたいものです。次回は女性の方々、これまで参加が少なかった中小企業の組合役員の方々にも加わっていただき、是非新しい風を吹き込んでもらいたいものです。

受講生代表コメント

香川ゼミ・副班長／
JFEスチール知多労組執行委員
岩田 欽二 いわた・きんじ



「乾杯」と共に吹き飛んだ不安感

私は今回の研修会に参加するにあたり、合宿制で参加期間が長いこと、また、私自身の組合経験が浅い事、そして何より事前配布された講義テキストの内容を拝見した時に大学レベルの内容とあり、私にとっては非常に高度であった事から不安に駆られながら出かけた事を思い出します。

そんな不安は他の多くの参加者の方も感じていたのか、開校時には表情が堅く緊張感が漂っていました。しかしそこは組合役員、そんな不安も夕食での「乾杯!」という発声と共に吹き飛び、今まで名前すら知らない者同士が腹の底から笑える仲間となりました。研修では、朝の体操から講義の進行等ゼミ毎のグループを主体に行動し、夜にはゼミについての議論や産業別の仕事の壁を越えた話で討論など、夜通し仲間と激論を交わっていました。

2週間半という長いようで短い研修期間ではありましたが、平田校長先生のお言葉「よく学び・よく遊ぶ」の如く、ここでの経験は私の人生に大きな刺激を与えていただき、大切な仲間と形では表現できない宝物をいただいたと痛感しております。

最後になりますが、私を送り出してくださった単組の方や労働リーダーシップコースでご講義いただいた先生方及びスタッフの方々、そして親愛なる第40期生の仲間の皆さん、善き思い出をありがとうございました。そして、これから参加される方については何も心配することはありません、コース終了後には、「参加してよかった」と実感すると思いますよ!

香川ゼミ・班長／パナソニック AV ネットワークス労組副委員長
中村 修治 なかむら・しゅうじ



寝食を共にした仲間との誓い

今回、1月7日～24日にかけて開催された『第40回労働リーダーシップコース』に参加をさせて頂きました。うっすらと雪に包まれた比叡山の裾野に広がる物事を深く見つめ直すには絶好の施設、『関西セミナーハウス』で総勢40名の仲間と共に不安と期待が入り交じる中で研修がスタートしました。カリキュラムの内容は労働運動に直接関係する内容はもとより、経済、国際、統計、哲学、宇宙、ボランティアなどなど、多くの専門知識の習得と過去に経験した事がない気付きの場を与えて頂きました。

また、ゼミナールでは香川先生の『21世紀国際社会における労働組合の役割』をテーマに、企業を取り巻く環境や国際連携のあり方、労働格差の実態などゼミのメンバーと夜遅くまで論議しました。振りかえってみれば、時間に追われ講義から講義への頭の切り替えがなかなか出来ず、苦しかったけど自分の人生の中で貴重な経験をさせて頂いたと感謝しております。そして何よりも、同じ釜の飯を食い、生活を共にした仲間と深夜まで熱く語った目指すべき社会や企業、労働組合の姿など、それぞれの組織の中で自分の役割をしっかりと果たして行こうと誓い合った事が忘れられません。この先、多くの難題など壁にぶつかる事があると思いますが、この経験を励みに頑張っていきたいと考えています。最後になりますが、研修を支えて頂いたJ.C事務局の方や講師の先生方、関西セミナーハウスの職員の方々と関係者の方々に感謝致します。

ゼミナール担当講師のコメント 3

石田ゼミ



労働リーダーシップコース運営委員
／同志社志社大学社会学部教授
石田 光男 (いしだ・みつお)

私の担当したゼミでは「職場における労働組合の役割」について議論を深めた。業務の効率化、個々人の仕事レベルの引き上げ、組織のフラット化にともなう上司部下の関係のコミュニケーション不足等によって、組合員個々人の悩みは増大している。この職場問題の特徴は、表面的には個人的な悩みや不満であるが、よく事例を語り合ってみると労働時間や目標面接制度への職場の労働組合の取り組みと深く関わっていることである。従来の団体交渉や労使協議などの伝統とは違った、職場レベルでの個々人を支える仕組み作りやルール作りが重要となっている。

9人の参加者は各自の職場の実態を相互に語り合い、細部にわたってもおろそかにせず質疑応答を繰り返した。



石田ゼミ記念撮影

その結果、組合支部によってその取り組みに予想外の大きな違いがあることがわかった。先進的支部では個々人の翌月の労働時間についても組合が経営責任者と協議をし、それをフォローしている。このことによつて、経営は労働時間と業務負荷について計画性をもつて対処しなくてはならなくなり、結局、仕事の進め方、人の配置、教育訓練について職場の話し合いが真剣になされるようになったという。

このコースで私が学んだことは、労働組合の創意工夫によつて、従来活動領域として認識されていなかった個々人の労働時間や業務分配などについて、堅実な取り組みが始まっていることである。これを共有し個別事情にあわせて拡大していく必要がある。こうした議論ができたことに9人の参加者に感謝したい。

受講生代表コメント

石田ゼミ・班長／級長
マツダ労働組合広報・教育部長
住田 孝司 すみだ・こうじ



参加するならより主体的に！

2009年1月に開催された「IMF-JC 労働リーダーシップコース」は第40回という記念すべき開催回数ということもあり、参加者は総勢42名、ゼミも5つと例年を上回る規模での開催となりました。級長は、例年だと班長&副班長から構成される実行委員会内で互選により決定されるようですが、今回は全参加者の前で行なわれた副班長対抗「じゃんけん大会」という画期的(?)な方法での選出となり、想定外の級長就任に多少戸惑いを感じましたが、「参加するならより主体的に」との想いもあり、楽しく担当させていただきました。

本コースに参加するメンバーは、それぞれが所属する単組・労連ですでに活躍していることもあり、各ゼミでは活発に討議に参加するとともに、ゼミを越えて積極的に懇親を深めていきました。当初はあれだけ長く感じていた3週間にもわたる期間はあっという間に過ぎ、貴重な体験として今後の組合活動の糧となるでしょうし、今回築いた人の繋がりも、今後の組合活動に生かしていける大切な財産となることでしょう。

ちなみに、第40回生一同の記念植樹は元気でした(5/16撮影)。いつの日か、この記念植樹を囲み、みんなで再会したいですね。



第40回生 記念植樹の木

石田ゼミ・副班長／
JFEスチール千葉労組執行委員
佐藤 忍 さとう・しのぶ



「人と人とのつながり」で大きな財産

第40回のリーダーシップコースが開校し、はや半年が立ちました。今思うと、本当に貴重な経験をさせてもらったなど実感しております。

2週間半という長期間の研修はもちろん初めてで、講義を中心としたカリキュラムに特別講演・討論会・ゼミナールと、非常に中身の濃い内容でした。講義では、質疑応答で自分が疑問に思ったことは積極的に質問し、また、一緒に参加されている皆さんがどんな疑問をもったのかを聞き、非常に有意義でした。終わってからも、講義内容について意見交換を行い、参加者それぞれ捉え方が違い、いろいろな角度から考えることが重要だと再認識しました。

ゼミナールでは、メンバーとの意見交換を活発に行い、各組織で取り組みは違えど抱えている課題はほぼ一緒だということになり、議論を深める中で、課題の本質と目指すべき方向性のヒントをつかむことができたことは、自分にとって大きな収穫となりました。

この研修を通して、組合役員としての資質向上は勿論のこと、組合活動の原点である「人と人との繋がり」が最も大事であり、この研修で知り合った仲間との交流は自分にとって大きな財産になったと思います。第40期生の皆さんありがとうございました。そして、今後とも宜しくお願いします。

最後に、ご指導いただいた講師陣、JCスタッフ、関西セミナーハウス職員のみなさまに感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

ゼミナール担当講師のコメント 4

中田ゼミ



労働リーダーシップコース運営委員/
同志社大学大学院総合政策科学研究科教授
中田 良文 (なかた・よしふみ)

私たちのゼミは、「仕事と処遇」納得性のある給与の決め方と水準」をテーマに、ゼミ討議を5回行い、他の4ゼミと合同で行った全体ゼミ報告会を含めると、延べ15時間を超える中身の濃いゼミ活動であった。しかし実態は、これらの「表」のゼミ活動以外にほぼ同程度の時間を、毎回のゼミ活動のための準備に中田ゼミ参加者は費やしたので、合計すると30時間余りの時間を、8名のゼミ生が1つの目的に向けて、学びの時間を共有したことになる。改めて、本リーダーシップコースにおけるゼミ活動の重要性を再認識させられる数字である。

さて、今年のゼミ活動も、これまでの中田ゼミの伝統を踏襲し、以下の3点に設定した。

(1) 給与の多様な意味を理解することを通して、組合活動に対する多様なス

テークホルダーの存在を理解する。(組合活動の社会性の理解)

(2) 日本の給与の決め方と水準の実態を知ること、その背景にある(普遍性のある)ロジックを理解する。

(3) そのような実態とロジックの納得性を評価することを通して、今後の組合の賃金政策のあるべき姿について考えをまとめる。

これらの3つの目的に向け、5回のゼミでは、(A)各自が所属する組織の賃金制度と水準について理解する。

(B)他の参加組織の賃金制度と水準を調査し、自組織との差異とその理由を検討する。(C)個別ゼミメンバーの報告を全員で総括し、JC参加の大手企業における賃金の決め方とそのロジック、およびそれぞれのステークホルダー

にとつてのそのメリット、デメリットを明らかにする。(D)最後にそのま

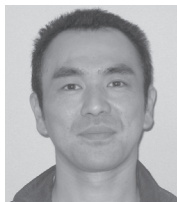
とめに基づき、自組織の賃金制度と水準、および背景にあるロジックを評価し、自組織にとつて望ましい賃金制度と水準、およびそのロジックを提言案にまとめる、以上の活動を行った。

各自、毎日様々な授業に出席し、さらには早朝と夜にも様々なプログラムをこなしながらの「過酷」なゼミ活動にも関わらず、ゼミ生間で助け合い、初期の目的を全員が見事に達成してゼミ活動を終了した。

受講生代表コメント

中田ゼミ・班長/本技研労働組合エンジニアリング支部書記次長

中川 義明 (なかがわ・よしあき)



企業や産別を超えた仲間との出会い

はじめに本コースへの参加が決まった時、長期間のセミナーであることへの不安で一杯でしたが、終わってみれば組合役員としてより、社会人として重要で必要な知識、考え方をたくさん得ることができ、そして何より、企業や産別を超えた全国の仲間ができたことが自分にとって貴重な財産となりました。

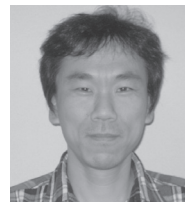
セミナーの内容については、自分の立つ歴史的背景～自分の立っている場～自分の住む世界への広がり～自分の生きる基礎と、コースの概念チャートにあるように、まさに全人格的教育であったと感じました。

そして何よりゼミでのテーマ議論については、中田先生のもと、「仕事と処遇」ということで賃金について、各自組織の賃金制度の課題、どのようにすれば納得性のある制度になるのかを、全体で討議しまとめました。議論を通して、よそを知ることで自組織の良し悪しが見え、取り組むべき課題が見えてきました。集団生活を通して、貴重な仲間、知識を得ることができました。

最後に、お世話になった先生、関西セミナーハウスのみなさん、JCと、このような大変な時期に快く送り出してくれた支部に感謝致します。ありがとうございました。

中田ゼミ・副班長/
三洋電機労働組合NDSS支部書記長

北之間 努 (きたのま・つとむ)



人と人とのつながりを広げることができたことが最大の成果

今回、節目となる第40回の労働リーダーシップコースに丁度春季生活闘争の準備が始まる1月に3週間余りも支部を留守にすることに大きな不安を覚えつつ普段の仕事の忘れるつもりで思い切って参加をさせていただきました。

講義は毎日続きますが、普段触れることの無い新鮮な内容が多く、また、講師の方々の個性豊かで面白く興味深い内容に引き込まれていきました。

専攻した中田ゼミの「労働組合と社会」は、労働組合活動における重要なテーマでもある人事処遇制度について議論を交わし、普段知らない他社の実際の状況を聞くことができ、大変有意義な意見交換ができたのではないかと思います。また、講義以外の座禅や茶道の体験も興味深かったと思います。

講義後には、夜遅くまで議論や交流ができ、労働組合活動の原点でもある人と人とのつながりを広げることができ、このことがこの研修の最大の目的と成果の一つではないかと思っています。受講されていない方々に是非受講をお勧めしたいと思います。

最後になりますが、今回機会を与えてくださった労働リーダーシップコースに関係されたIMF-JC、関西セミナーハウスそして講師の方々、送り出していただいた出身組織、研修でめぐり合えた受講生の皆さんに御礼を申し上げます。いつまでも、この研修会が続く事を願っております。有難うございました。

富田ゼミ

ゼミナール担当講師のコメント 5



労働リーダーシップコース運営委員
／同志社大学社会学部教授

富田 安信 (とみた・やすのぶ)

第40回から新たにゼミを担当して
います。ゼミのテーマを決めるに当って
すでにある5つのゼミのテーマと重
ならないよう、「労働組合と働き方・ワ
ーク・ライフ・バランス」というテーマ
を選びました。男女雇用機会均等法が
施行されたところから、私は女性の能力
発揮について調査・研究してきたので、
私にとっても「ワーク・ライフ・バラ
ンス」は興味のあるテーマです。

「ワーク・ライフ・バランス」とい
うテーマなので、1人くらいは女性が
私のゼミに参加してくれるだろうか
ら、仕事と育児の両立をテーマに議論
すればいいかなと思っていました。し
かし、ゼミ参加者の名簿を見ると、9
人全員男性でした。ゼミが始まるまで
は、男性9人がこのテーマでどんな議
論をするのか予想できませんでした。



第一回富田ゼミ

しかし、1回目から議論は盛り上がり
ました。

残業時間の抑制や休暇取得の促進な
ど各職場での取り組み事例をお互い紹
介するとともに、「ワーク・ライフ・
バランス」を「トータルな働き方を改
革し、ゆとりある生活を実現する」と
定義し、問題意識を全員で共有するこ
とができました。そして、長時間労働
の是正に向けて、それぞれの職場での
取り組み内容へと議論を具体化してい
きました。

昨年度は初めてということもあり、
私はほとんど聞き役でした。今年度
は、ワーク・ライフ・バランスについ
ての研究者の研究成果をどんどん紹介
して、ゼミ生のみなさんが議論を整理
し、深めることができるよう手助けし
たいと考えています。

受講生代表コメント

富田ゼミ・班長／
パナソニック電工労働組合中央執行委員

金田 聡 かねだ・さとし

最後まで一つの課題を追求する姿勢の 大切さ学ぶ

リーダーシップコースが終了し、既に半年
が経ちました。

今回の参加にあたり、組合専従者としてはじめて全国からの産
別の枠を超えた集まりのセミナーとすることに對する期待と不安
の中、一緒に参加する方たちから何か自分に無いものを得て帰ろ
うという決意を決めて望みました。

当労組の本部・支部役員の方々も大半がこのリーダーシップコ
ースに参加したメンバーで、私の目から見ると皆素晴らしい人間性
の方たちで口をそろえて成長の糧となったのはやはり、このリー
ダーシップコースだと言っていました。

1月の真冬の最中、京都の関西セミナーハウスで過ごした3週
間は労働組合とは？の疑問に対し、改めて詳しく深い部分まで考
えることが出来たと実感いたします。何よりも参加者同士のグル
ープディスカッションなど参加者同士の交流が盛んに行われ、組織
を超えた人間対人間の横の繋がりが出来ました。

講義では限られた時間ではありましたが、ひとつの課題に対し
徹底的に真因を探ることを習い、とことん深掘りし、それでも導
き出した結果に納得できず、最後まで真因を導き出せなかったの
ですが、導き出すまでの過程や最後までひとつの課題を追求する
姿勢の大切さを学びました。



富田ゼミ・副班長／
JFEスチール福山労組執行委員

野原 健一 のはら・けんいち

「ワーク・ライフ・バランス」ゼミでの 経験 今後の活動に生かしたい

2009年1月リーダーシップコースを受講し
て半年が経ちました。当時、組合の執行委員と
して仕事を始めて3か月という経験のもと、労働組合の右も左もわ
からない状態でコースに参加することになり、最初は不安な気持ち
で一杯でした。

今回のコースでは富田先生の指導のもと、「ワーク・ライフ・バラ
ンス」という近年注目されているテーマを選定し、ゼミに参加しま
した。

現代社会において「ワーク・ライフ・バランス」の取り組みは重
要なものであり、進めていかなければならない課題であると認識す
るところです。しかし、すぐに解決できる問題ではなく、ゼミのなか
で検討すればするほど様々な問題が隠されており、企業によって、
できる部分とできない部分がはっきりしており、労使が十分に時間
をかけて議論していかなければ実現できない問題であることに気付
かされました。

同時に、自分たちが組合員のために、より良い社会を実現させる
ためにやらなければならない課題であるという責任を再認識するこ
とができました。

今後、このコースの経験を生かしながら、組合員の生活の安心・安
定の実現のため、これからの組合活動に従事していきたいと思いま
す。



変わらぬ「安心」を、お届けするために。



助け合う心を大切に、共済事業を進めて半世紀余り。
全労済はこれからも、組合員の皆さまの声に応え、
事業と助け合いの輪を広げていきます。

責任品質。

全労済は、営利を目的としない保障の生協として共済事業を営み、組合員の皆さまの安心とゆとりある暮らしを目指しています。すでに組合員は全国で1,390万人。出資金をお支払いいただいで組合員になれば、各種共済をご利用いただけます。

こくみん共済	総合医療共済	せいゆい共済	ねんきん共済
自然災害保障付 火災共済	社員共済 火災共済	マイカー共済	自賠責共済
交通災害共済	団体生命共済	セット移行共済	慶弔共済